

条々(成) 二八、名田帳断簡亨(成)

以上、(閣)は内閣文庫、(成)は成實堂文庫の略。なお巻末に詳細な索引が付されている。

(A5判本文・解題四六三頁・索引四六頁・ロ
絵四頁 昭和四〇年三月 福井市宝永一丁目県
立図書館内・福井県郷土誌懇談会刊 頒価二、
五〇〇円) (熱田 公)

ランシマン著 護雅夫訳

コンスタンチノープル陥落す

コンスタンチノープル陥落といえ、だれしもあのシュテファン・ツヴァイクの『歴史の決定的瞬間』を思い出す。何が彼の典拠になったのかよく知らないが、とにかく実に要領よく、生き生きと事件の全貌を再現したのには全く驚かされた。が、本書のランシマンは、その文学性においてツヴァイクに少しもひけをとらない。しかもかれはギリシア語、スラヴ語、西欧語、トルコ語の膨大な史料を冷徹に操作する。だから本書は、ランシマンでなければ著わせない学問的文学書、あるいはイギリス史学の

典型的産物といってよい。

かれの著作としては、『十字軍』『ビザンチン文明』『皇帝ロマス・レカベヌス』『シチリアの晩鐘』などのほか、本書の成果をひきついで、トルコ治下のコンスタンチノープル教会の歴史を跡づけた『捕囚の大教会』がある。つまり、かなりトピック的なテーマをとりあげ、それをあらゆる角度から平易に分析叙述するのが特徴なのだ。そしてこれらのうち『シチリアの晩鐘』の如く、短時間に集中する出来事を扱ったものが、張りのある文章で読者を魅了する。この意味で、本書はランシマンの良さが最もよく發揮される部類の著作群に属する。叙述そのものにも書物全体の構成にもこれはバランスのよさをいつも意識する。本書もまたその例にもれず、全体はほぼ同じくらいの三つの部分にわけられる。即ち、第四章までがビザンツ帝国の衰退とオスマンの発展に当てられ、ついで第五章から一〇章までが包囲より陥落まで、また以下三章が陥落後の東地中海世界および第三のローマの状況に当てられる。が、何といって

も焦点は包囲開始の四月二十九日から陥落の五月二十九日までの攻防で、恐らくこれ以上精密に両軍の動きを復元するのは望めないだろう。そのさい、コンスタンチノープルの三重城壁の構造(その驚くべき厚さ)とか、市の先端部分附近の海流の早さ、浅瀬・岩礁とか、難攻不落の条件も指摘される。また戦闘の硬着状態を破った「トルコ艦隊、陸を走る」という奇想天外な作戦(四月二二日)のいきさつも詳しい。面白いと思われるのは、長期包囲にもかかわらず最後のとどめをさせぬことからくるトルコ陣営のあせりと意見の不一致で、たとえば五月二五日にはスルトンのキャンプで、これ以上の包囲継続は西方からの軍事援助の気配から、むしろ危険で、早く和議を結ぶべしとする宰相ハリル・パシャと、強硬な主戦論者ザカノス・パシャが対立し、スルトンが最終的に戦闘強化を指示するという一幕もあった。ハリル・パシャなど老練の幹部にキリスト教徒への友好的姿勢が見られるのは、オスマンにおけるビザンツ文化の影響の深さを物語るし、またザカノス・パシャとの

対立には、多分世代の違い——先進文明への態度の差——といった面もあったのであろう。

訳文は原文の調子を生かして読みやすい。なお原著は一九六五年刊行で、現在、ペーパーバックでも手にはいる。(B6判二八四頁昭和四四年一月みすず書房刊定価九〇〇円)

(米田治泰)

編集後記

◇ ようやく、という感じで、五三巻一号をお届けいたします。一九七〇年ものり少なくなりましたのに、本誌はただ今から七〇年代をはじめます。ジャーナルというにはあまりにも実際の刊行月日と表記発行月日とのズレは大きいのですが、当面修正はいたしません。本号を機に連続発行してゆく予定でいますので、二号・三号の組版を進めています。可及的に早くおいつくのみ、というのが、委員会のスローガンであります。

◇ 刊行がいちじるしくおけているにもかかわらず、きちんと会費をお支払いただく方も多く、感謝しています。しかし、会誌をお届けしないままに、大分と赤字がたまっていく方もまだ多いのです。寄稿いただく方のご都合、委員会の事務体制、印刷所の問題などが重なりあってこの刊行のおくれとはなりましたが、それを回復してゆくために、今後の大きな隘路は、財政問題、ということになりかねません。赤字の方は

至急に御納入下さいますよう、御協力お願い申し上げます。

◇ 会員名簿をお出しする、と報告したまま、これまたおこなっています。年末までには完成したく考えています。そこで、昨年以來、ご勤務先の変わった方は、至急に御連絡下さい。御連絡なければ、旧勤務先のままとなりますこと、あしからずご了承下さい。

史

林

(第五三巻第一号)

一九六九年二月二五日印刷 定価三〇〇円
一九七〇年一月一日発行

発行人

京都市左京区吉田本町
京都大学文学部内

史学

研究會

理事長

井上智勇

印刷所

京都市下京区七条御所ノ内町五〇
中村印刷株式会社